

見過ごせない！安倍首相のヤジ

表題と写真は、毎日新聞 2 月 26 日夕刊「特集ワイド」である。リードから。「国民のリーダーたる首相が国会論戦で『日教組！』などとヤジを飛ばし、しかも事実誤認で、後日訂正と謝罪一。安倍晋三首相のヤジ問題は西川公也農相の献金疑惑と辞任騒動の陰に隠れてしまったかのようだが、実は重大かつ深刻な問題なのではないか。識者たちに聞いた。」この指摘に同感であり、見解を紹介しよう。



ジャーナリストの安田浩一さん「国会に『ネットウヨ』的言論」。今、社会では、相手を敵か味方かに分け、敵と認定すれば皆で寄ってたかってたく風潮が広まっています。「反日」「売国奴」など、何の議論も対話も成立しないような根拠のない罵詈雑言を浴びせかける風潮もあります。今回はそれがとうとう、国会の議論の場にまで持ち込まれてしまった。まして一国の首相の手によって。そのことが最大の問題ではないでしょうか。

作家の吉永みち子さん「マスコミよ、もっと怒れ」。この問題を大きく報じているのは一部の新聞です。安倍政権の広報紙みたいな新聞は当然として、テレビもあまり取り上げない。私が心配するのはそんな今の日本の空気感です。イスラム過激派組織「イスラム国」(IS)の事件でも、政府対応が正しかったのか検証が必要なのに、それを言うと、なぜか「テロに屈する」などと言い出す。議論のすり替えなのに、みんな黙っている。安倍政権からクレームがくるのが怖いのでしょうか。なぜ戦前の日本人は政府・軍部の愚かな暴走を許したのか、不思議でしょうがなかったんです。でも今の日本を見ていて「ああ、そういうことだったのか」と得心します。杞憂に終わればよいのですが。

政治評論家の森田実さん「昔なら内閣が吹っ飛んだ」。安倍首相の言動に、1953年2月の衆院予算委員会を思い浮かべた。右派社会党の議員の質問に当時の吉田茂首相が小声でつぶやいた「バカヤロー」という言葉を偶然マイクが拾った。懲罰動議が可決され、さらに内閣不信任案の可決に発展、いわゆる「バカヤロー解散」の引き金になった。首相がヤジで言及した日教組の組織率は既に2割台だ。そんな組織への敵がい心に凝り固まっているとすれば、あまりに古い思考と言わざるを得ない。国会で政府を点検するという正当な行為を首相自らが妨害するのを許せば、行き着く先は弾圧だ。感情を抑制できず表に出してしまったことも問題だ。むきになる姿勢は国内政治に限らず外交的にもマイナス。

このレポートでも何回か取り上げているが、どうも安倍首相、安倍内閣に危ないものを感じる。吉永さんが言うようにマスコミだけでなく、「国民よ、もっと怒れ」。

(2015年3月2日)